

次代への水を守る

枕崎市立立神中学校 三年 俣江またえ 颯太そうた

幼いころから海が好きです。「お父さん、いいサイズのが釣れたよ。」お父さんと海に行き、自然と無心になりながら釣りをしていたことがとても楽しく、懐かしく感じます。そんな些細だけど楽しい思い出を作ることができたのは水があつてのことです。水があることで川があり、海があります。海があれば魚がいます。このように水は身近にあり、欠かせないものです。

私達が生活していく上で必須な水ですが、いつか水を飲むことができないう未来が近づいているように思います。みなさんは、水を無駄なく使っているでしょうか。私は、以前まで水の大切さについて考えたこともなく、正直、「水なんて、いっぱいあるのだからなくなることはないだろう。」と思い込んでいました。しかし、水問題の現状を知り、その考えが百八十度大きく変わったのです。私

たち人間が、一日に使用する水の量はおよそ三百リットルです。三百リットルは、一リットルの牛乳が、三百ぱい分です。考えてみたら一日だけでものすごい量の水を我々は使っていることが分かります。このまま、物凄い量の水を使い続けるのは良いことなのでしゅうか。

地球上には、およそ十四億キロ平方メートルの水が存在しています。この九十七・五パーセントを占めるのが海水です。人間が利用することが出来る「淡水」は二・五パーセントほどで、そのうち約七十パーセントが南極や北極地域の氷雪です。そして、残りの大半は地下水です。このことから、人間が利用できる水の量は、非常にごくわずかな量だと分かかります。

みなさんは、日々生活している中で水を無駄に使ってしまったという経験はありませんか。僕は、もちろんあります。身近な例でいうと、歯磨きをするときです。僕は、歯磨き

を終わらせ、口をゆすぐときに水をだしっぱなしにしていたことがありました。これの何がいけないのかと思われるかもしれませんが、実はこの行為は、とても水を無駄にしているのです。なぜかというところ、口をゆすぐときにコップを使っていないからです。コップを使って口をゆすぐだけで、一回あたり約六リットルの節水になります。一日に使う水の量の五十分の一の量を節水できたことになります。この一つ一つの小さい節水が、水を無駄なくかつ次代への水を守ることにつながるのです。

私たちが生きていく日本は、「飲み水に困る」ということは滅多にありません。そんな難しく生活できる日本に生きていくからこそ外国に目を向けるということはないと思います。今、一部の外国では、日本とは違く水不足に悩んでいる所があるのです。水不足が進行すると、国同士での紛争に発展することがあります。我々が日々あたり前のように使っているトイレが使えない国だってあります。

このような現状で良いのでしょうか。私たちはこのままでもいいのでしょうか。日々、皆さんの水がある中で暮らしていかけているからこそ、水に対してのありがたみを感じ、無駄にすることなく大切に使うべきではないのでしょうか。今までの自分の水の使い方振り返り「水を無駄に使っていないか」を考え節水という行動をとることが大事だと私は強く思います。十年後、百年後世界中が豊富な水で溢れ、全ての人々と幸せを共有すべきではないのでしょうか。将来、この地球がたくさんの水で溢れることを願っています。